

平成28年度第5回「墨田区次世代育成支援行動計画推進協議会」  
「墨田区子ども・子育て会議」議事要旨

日時：平成28年11月18日（金）午後6時30分から  
会場：墨田区役所 131 会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の実施結果報告について	資料1 ～資料5
(2) 平成28・29年度 保育施設今後の整備予定について	資料6

3 次回開催予定

4 閉会

配布資料

- 資料1 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査結果等から見られる現状と課題[未就学児保護者アンケート]
- 資料2 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査結果等から見られる現状と課題[小学生保護者アンケート]
- 資料3 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査結果等から見られる現状と課題[成人前本人アンケート]
- 資料4 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査 調査結果報告書(概要)
- 資料5 平成28～29年度墨田区子ども・子育て会議等スケジュール(案)
- 資料6 平成28・29年度 保育施設今後の整備予定について

## 出席者(敬称略)

### 委員

- 大豆生田 啓友 (玉川大学大学院教育学研究科教授)  
野原 健治 (興望館館長)  
高嶋 景子 (田園調布学園大学大学院人間学研究科子ども人間学専攻教授)  
長田 朋久 (横川さくら保育園長)  
西島 由美 (にしじま小児科院長)  
服部 榮 (社会福祉法人雲柱社理事長)  
高橋 朋宏 (文花子育てひろば施設長)  
押田 剛 (主任児童委員)  
佐瀬 一夫 (中学校 PTA 連合会顧問)  
内田 淳 (青少年委員協議会委員)  
根里 美佐 (堅中地区青少年育成委員会委員長)  
小菅 崇行 (小菅株式会社代表取締役会長)  
新木 真理子 (ひまわり保育園施設長)  
賀川 祐二 (NPO 法人病児保育を作る会代表理事)  
貞松 成 (株式会社 global bridge 代表取締役)  
熱田 美帆 (公募)  
小林 佳香 (公募)  
佐藤 摩耶子 (公募)  
関 舞衣子 (公募)  
陳 農 (公募)  
松井 隆 (寺島中学校長)  
青塚 史子 (八広保育園長)

### < 欠席委員 >

- 杉浦 浄澄 (江東学園幼稚園副園長)  
相澤 しのぶ (立花吾孀の森小学校 PTA 会長)  
中村 信幸 (連合墨田地区協議会議長)  
本多 美絵子 (両国幼稚園副園長)  
木村 律子 (公募)  
荘司 美幸 (公募)  
近藤 ゆき江 (八広幼稚園長)  
島村 博 (菊川小学校長)

部課長出席者

石井 秀和（子ども・子育て支援担当部長）、浮田 康宏（子育て支援課長）、杉崎 和洋（子ども課長）、高橋 義之（待機児童対策担当副参事）、三浦 博司（厚生課長）

事務局出席者

小川、岩崎、岩佐、戸村、酒井、小林、土井

事務局(株名豊)

糸魚川

傍聴

1名

## 1 開会

学齢ワーキンググループと子ども主体の協同的な学びプロジェクト企画会議（乳幼児ワーキンググループ専門部会）の進捗状況報告

## 2 議題

### (1) 墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の実施結果について

会長	それでは議題に入ります。墨田区子ども・子育て支援ニーズ調査の実施結果について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料1～5説明)
事務局	資料2の2番「学童クラブの利用状況」についてですが、3年生まで利用していた方の割合は51.2パーセント、4年生を超えて利用していた方の割合は1パーセント未満とごくわずかになっています。これは、墨田区では基本的に3年生までを学童クラブの対象とし、4年生からは例外的に対応するという制度になっているためです。
会長	詳細なアンケートの整理をありがとうございます。かなりポイントを整理していただいたと思います。それと同時にこの3年間での変化がこんなに大きいのは、子育ての近年の流れの中ではあり得ない状況だと思います。これは全国調査でも似たようなことがあちこちから見えてきていますので、そちらとも関連しているように思います。皆様から、ご意見、解釈に対するご質問等ございませんか。
委員	解釈のところで気付いたことがあったので質問させていただきます。まず資料1の8番「相談相手の状況」です。一番下のところで「特に相談することはない」、「相談できる人はいない」は約1パーセントとごくわずかと両方まとめて書いてあるのですが、これは「特に相談することはない」というのは0.5%、Nが1,095人なので5人くらいです。また、「相談できる人はいない」は、1.6%、これもNが1,095人なので17人くらいです。数字もそうですが、「相談することはない」という人と「相談できる人はいない」という人は、一括りにしたらいけない気がします。全く違うことだと思います。この5人の方は「相談することはない」と言っているのが良いと思うのですが、17人の「相談できる人はいない」と言っている人に対しての課題がもう少し見えてきて良いのではないかと思います。具体的には12番に「墨田区子ども・子育て支援事業計画の見直しに向けて」の3番「困難を抱えた子どもと家庭の支援体制を手厚くします」と書いてあります。昨今ニュースでも虐待で子どもを殺してしまうといった話を聞きますが、この「相談できる人がいない」というような人に対して、例えば6か月検診、9か月検診に来ない親の対応をしますとか、横のつながりをといったようなところを検討していただいても良いかと思います。次に資料3です。これは根本的なところだと思うのですが、1番「一緒に暮らしている家族」問3の一番下に「前回調査と比べると、大学生等において「母子家庭が増加」と書いてあります。これはNが31人しかいません。5.1%から19.4%に増えていて、数字としては間違っていないと思いますが、ここでピックアップするにはかなり誤解を与えてしまうのではないかと感じます。
会長	成人前に関しても母数の問題があるので、母子家庭の世帯の増加というのは全体像とのではないと思います。他の乳幼児や小学生のものと比べると、統計としての意味合いが違うということが大前提ということが明記されることが大事かと思います。その点では何かあり

	ますか。
事務局	ご指摘ありがとうございます。確かに母子家庭のところは、子どもも様々な手当や事業の中で母子家庭の数というのは把握できますので、そういったところも併せて解釈を修正させていただきたいと思います。
委員	アンケートの回収状況のところ、成人前の配布数が700通で有効回答数が435通とあります。中学生に配った数と回収した数が書いていないので、中学生はその場ですべて回収したと考えると、成人前に発送した数が300ですから700引く300で中学生が400ということになります。400すべてを回収したとすると、成人は35通しかないということになります。そういったことがまず抜けてしまっているの、評価をする際にはそれをどこかに明記した方がよいのではないのでしょうか。また、質問にありました「相談する相手はいない」ということに関連して、私はこの元ネタを読んでいまして、就学前のお子さんに対する質問の26ページ目に誰に預けたかといったアンケートがあったのですが、誰にも預けられなくて「子どもだけで留守番をさせた」という答えがありました。その中に「11日以上」という方が1件あります。これは問題だと思えます。ここは1件であってもこんなことはあり得ないことなので、先ほど言われていたように、そういうニーズをすくい上げて、相談するとか、預かるといったことを考えていかないと虐待などが起きると思えます。
事務局	まさにネグレクト、児童虐待の可能性があるので、そういったことを的確に把握して支援する仕組みを考えていかなければいけないと思っています。
委員	確かに病気のお子さんを預かるのは非常に危険なので、私も預かれと言われるとお断りするかもしれないと思いながらやっています。全体として、企業のワーク・ライフ・バランスの取り組みが少ないという意見もあります。総力戦で行わないとこの問題は解決できないと思えます。大学生のアンケートで、大学生は運動しないと言われていますが、大学生は勉強をしていますから運動はなかなかできません。また、お金がなくてアルバイトをしていますから、運動しろというのは難しいと思えます。切り口を変えないとあまり意味がないかと思えます。
会長	一つ驚いた結果で、今まで気付かなかったのですが、8番の「相談相手」のところ、「かかりつけ医」が15%ということですが、他の自治体ではあり得ますか。他との比較はどうでしょうか。
委員	比較はわかりませんが、私の患者さんは相談ごとも多いと思えます。子育て支援総合センターの存在を知らない人はたくさんいます。うちは子育て支援総合センターが目の前にありますが、中が見えないので私も入りにくいです。中で何をやっているのかがわからないと入りにくいです。
会長	私の住んでいる横浜の実態から比べると全く違います。「かかりつけ医」がここまで高い率にないし、子育て支援総合センターや子育て支援拠点のようなものが高いはずで、ここはかなり特徴的だと思います。
委員	「かかりつけ医」についてですが、私は子どもが2人います。小児科や歯医者さん、よく怪我をするので整形外科、耳鼻科にも行きます。先生方は気さくに「よく来たね」と話しかけてくださって、しばらくぶりにいくと「元気だった」と声をかけてくれて、すごく良い先生がたくさんいます。私はこの結果を見ても驚かなかったですし、お医者さんは専門家で、保育園の先生と同じくらい何でも話せる存在なので、これくらいなのかなというのが私の感想

	です。
会長	私も他との比較ができる具体的な材料が手元にありませんので、調べてみます。
委員	先ほど出てきた「相談できる人はいない」や「預ける先がない」といった人たちの支援を考えていくのにあたり、その対策をどのようにとっていくのかを明らかにするためにも、もう少しこの結果に対して、例えばそういった方たちが問 10、12 の「就園状況」についてはどういったところに子どもを預けていらっしゃるのかとか、児童館や地域子育て支援拠点の利用とはどうなのかとか、そういったところのクロス集計で、その方たちの背景が見えてくるような分析の仕方をしていただくと、もう少し要因や、具体的にどのような対策をとっていったら良いのかが見えてくるのかと思います。
委員	私も同じ意見ですが、少しクロス集計をしていただいて、もう少し分析をしていただけると良いと思います。例えば問 40 の 8 番で、実際に持つことができると考えられる子どもの人数が、理想の子どもの人数にいかない原因が何なのかというのがありますが、これが例えば就労している保護者と就労していない保護者でこの結果にどれくらいの差があるのかなど、色々な角度からクロスで掘り下げていただくと、よりこの調査が生きてくるのではないかと思います。
会長	いかがでしょうか。これをいつ出すのかというタイミングもあると思いますが、そのあたりの可能性についてコメントはありますか。
事務局	クロス集計や、相談をする方はいない人への背景についても分析されたら良いというご意見をいただきました。次回ニーズ調査をまとめたものについては、クロス集計を含めてお示しできると思います。また相談できる人がいないという回答につきましては、クロス集計ということもありますが、個別のアンケートの内容から読み取れる範囲で、そういった人がいないかについても分析していきたいと思います。
会長	クロス集計についてご意見があれば、ここを出しておいた方が良いでしょう。
委員	資料 2 の小学生保護者アンケートですが、4 番の「小学校に入学した時に心配だったこと」の文章のまとめ方が気になります。報告書の詳細の文章を見ると、「どのような習い事をさせたらよいか」と「すみだファミリー・サポートセンターなど放課後、子どもを世話してくれる人が見つかるか」で、「あまり心配ではない」と「ぜんぜん心配ではない」を合わせた“心配ではない”割合が高く 7 割になっている」と書いてあります。まとめてある資料 2 の方では、「ぜんぜん心配ではない」のが、ファミリー・サポートセンターと、もう一つが「習い事」のことではなく、「学童クラブに入所できるか」という表現になっています。両方を照らし合わせて見ればわかることなのですが、これだけをパッと見ると学童クラブに入所できるかというところは心配なことではないという割合がすごく高い印象を受けます。実際には、詳細のグラフを見ると、逆に心配されている方も 4 割いらっしゃいます。「ぜんぜん心配ではない」というところに挙げるには、感覚としては違うのではないかと思います。4 割というのは心配している人が結構いるように感じます。基本的には利用される方というのは、ご両親が就労されている方です。そういったところでの割合が反映されていると思うのですが、詳細を見ると「学童クラブに入所できるか」ということに関しては上の文章の説明に挙げていないので、合わせるとしたら「心配ではない」というところに挙げてくるのは、詳細に書かれている「習い事をさせたら良いのか」という方なのかと思います。
事務局	ありがとうございます。こちらは冊子にする段階では、表記に気をつけて改めたいと思いま

	す。
委員	学童クラブについてのクロス集計では、親が働いているか、働いていないかというものをかけないとわからないと思います。働いていない人は心配ないです。未就学児のアンケートと小学生の保護者のアンケートで、学童クラブの利用時間と、保育園の利用時間というのは同じ希望です。朝8時から夕方6時まで預けたいということです。今保育園は長時間になっていますから、そういった働き方を、学校に入ってもお母さんはしたいと考えたら、今の学童クラブでは不十分だと考えるのが普通だと思います。年齢が高くなるに従って、子育ての不安が増えてくるのは当たり前で、子どもはどんどん難しくなっていきますから、むしろ保育園時代の方が安心して預けて働けるのは当たり前です。保育園時代はお母さんに働けと言って、学校に入ったら終わりというのかなと思います。連続性のある、例えば小学校を卒業しても中学校、高校に行ってもお母さんはどうやって働き続けられるかということを考えていかないと、あまり意味がないのかなと思います。
委員	クロス集計の希望です。問26の土曜日、日曜日の利用希望の他にも、今集団に子どもたちを預けていながら、土、日を希望している方と、今はまだ集団には預けていないけれど、土、日を希望している方をわけて集計していただきたいと思います。子育てに対する自信について、「自信がある」「自信がない」というところも、今保育園、幼稚園に通っている子どもの保護者と、在宅で子育てをしている方の割合の違いなども出していただきたいと思います。
会長	貴重なデータなので、上手に生かしていただきたいと思います。今ご意見で出たことの中に、母親の就労の有無との関係が色々な項目がクロスで当てはまることが多いかと思います。

## (2)平成 28・29 年度 保育施設今後の整備予定

事務局	(資料6説明)
会長	ただ今のご説明について、ご質問、ご意見等ございますか。
委員	じょうえん第4保育園は28階建てではなく4階建ての方です。そらまめ保育園については、1階、2階、3階という意味ですか。それとも3階部分だけですか。
事務局	失礼いたしました。そらまめ保育園は3階部分だけですが、相当広いです。
委員	当初、この子ども・子育て支援事業計画では、墨田区を2つのエリアに分けて、エリア内の事業計画定員数の目標値を掲げて、それに見合うように保育園の整備をしていくということで進んでいたと思います。今そのエリア内の目標値に向かって、どれくらいまで充足してきたのかというもの、予定よりもオーバーした定員の園を作ろうとしているのか、オーバーしていないのかといったものが、一緒に資料としてあるとありがたいです。今後お願いしたいと思います。
会長	いかがでしょうか。
事務局	資料についてはまた次の機会に出していきたいと思います。状況ですが、計画していた数値はすでにクリアしておりますが、人口増があり、パーセンテージ的には下がってしまっています。さらに保育所が必要だと思えます。
会長	他にはよろしいでしょうか。それではこの件もお認めいただいたということで、本日の議題はこれで終わりとなります。ありがとうございました。

### 3 次回開催予定

### 4 閉会

次回開催予定

未定（平成 29 年 1 月中旬から 2 月上旬頃予定）

以上